横浜市小学校社会科研究会

４学年部会

研修会記録

第　６　号

令和４年　　１２月　７日
横浜市小学校教育研究会
会長　　徳江　武司
横浜市小学校社会科研究会
会長　　加藤　和之
同　学年部長　　金井　伸一

【提案日時】
１１月　２日（水）

【会　場】
横浜市立　平沼小学校

提案	佐々木　すみれ　先生（西富岡小）
	遠藤　恭兵　先生（二ツ橋小）
司会	内藤　和貴　先生（谷本小）
	藤巻　裕祐　先生（大曽根小）
記録	山口　暁風　先生（小田小）
	坂本　実　先生（川和東小）

１　提案内容　単元名

単元名　地域の伝統を守る相模人形芝居　～「下中座」～

２　提案者より

〇前回から変更した主な部分

① 単元の始めに、称名寺（国の有形文化財）への見学を追加。
国の有形文化財である称名寺に見学することを通して、無形文化財の下中座への感心を高め、選択・判断につなげていくことがねらい。

② 学習計画に沿って、大きな学習問題を調べるための時間(６時間目)を入れた。

③ ３００年間の時間の長さを子どもたちが理解するための手立て

・下中座の体験活動を踏まえ、Hさんの思いに迫っていく。

・佐々木先生が子どもと考えたいこと

Hさんが３５年かけてまで、演技台本を作った意味。

・３５年かかった時間の意味を調べるのではなく、作り方に着目して考える。

・３００年という長さを子どもに理解させるために
前単元(吉田新田)とのつながりを踏まえ、10年間を片足１歩分→300年間は30歩分　　→実感を伴う理解にしたい。

・体験学習でも、見て学ぶ指導を見に行く。

〇本気の学習問題について

・学習活動が多い気がする。

・Hさんの言葉から、佐々木先生が子どもに考えてもらいたいと思っていること

① 「江戸時代のままの芝居の仕方を継承したいこと」

②「１０代～９０代の幅広い層に使ってもらっていること」

３　質問

〇演技台本ができるまで、３５年かかった理由。

→家庭の時間＋５座（１座２０公演）のため、聞き取りに時間がかかった。

〇子どもたちは、台本に即した下中座の稽古動画は本時で初めて見るのか。

→その通り。演技台本をもとに、口で教え合いながら稽古している様子を見る。

〇Hさんの動画はどのような内容か。

→「江戸時代のままの芝居をしたいんだ。」などの短いものにする予定

４　協議

① 本気の学習問題の言葉について

・前時の学習問題と本時が似ている。子どもが、この違いを考えられるか

(案)前時　演技台本の作り方を学習「どのように演技台本を作ったのか。」

→「３５年かかった」という事実。

⇓

本時　「どうしてHさんは３５年もかけて、演技台本を作ってきたのだろう。」

・前半の「３００年間指導をしてきたのに」という言葉を入れる場合

子どもから、「演技台本作ることに反対がなかったのか。」「伝統を捨ててしまうのか」「台本がないと伝えられない」などという意見が出ていればよい。

⇒佐々木先生より。Hさんが高校生など、だれにでも同じ質の指導をするために、見て学ぶ指導から、演技台本に変えた。前半の「３００年間見て学ぶ指導をしてきたのに」という言葉は入れたい。

・「なぜHさんは下中座で３００年間見て学ぶ指導をしてきたのに、３５年もかけて演技台本を作ってきたのか。」

１２時・１３時をセットにし、Hさんに注目する２時間にするとよい。

・提案の本気の学習問題だと、子どもが考えるには複雑で難しそう。また、考えるべき内容が２つある。どちらを考えさせたいのか。

見て学ぶ指導→演技台本をもとにした指導　に変化した意味

３５年かけて演技台本を作った苦労の意味

⇒佐々木先生より。苦労の部分は、１２時間目に考えるので、１３時間目の本時で変化の意味を考えたい。

・「３００年間「見て学ぶ」指導をしてきたのに」を入れずに、「なぜHさんは３５年かけてまで演技台本を作ったのか。」と、シンプルな学習問題にする。

・「Hさんは３５年かかってまで、なぜ演技台本を作ったのか。」２つの意味。

①演技台本を作ったのはなぜか。　←佐々木先生が子どもと考えたいこと

②なぜ３５年かかったのか。

→「見て学ぶ指導をしてきたのに、なぜHさんは演技台本を作ったのだろう。」

前時までに、３５年かかった事実は年表などを通して抑えておく。

② 本時に向かうまでの単元の流れについて

・８時間目までは、下中座とは「見て学ぶ指導」をしてきたことの意識付け。
９、１０時間目で、演技台本を作ったことの事実を知ることで、子どもに「なぜ」という疑問が生まれる。

③ 本時の流れと資料について

・学習活動が多い。
・Hさんの動画は答えになってしまう可能性があるので、これまでに話し合ったことの意味がなくなってしまうので、出し方が大切。
・他３つの資料で、「なぜ台本を作ったか。」考えられる内容であれば、Hさんの動画は出さないことも一つの手だと思う。
⇒佐々木先生より。他の座の方のインタビュー動画などもあるが、どこで何を出したらよいのか難しい。
・「継承の意義」を考え、本時で目指したい姿に迫るため、どんな資料を精選。
⇒佐々木先生より。演技台本ができてから、座員数が抜けていない事実。＝伝統が継承できている。
・動画で聞くことの方が、子どもにとってHさんの思いに寄り添えると思う。
・演技台本を作った目的・理由について、変化したことと変化していないことを短い言葉で出せるとよい。
・口頭で伝えていくことの難しさを子どもが実感するため、実際にやってみる。
言葉で伝える難しさを実感→子どもが「ぼくたちは～思うんだけど、Hさんに聞いてみたい」という発言につながる。
・演技台本は、本時ではなく、前時で見せてもよさそう。
・演技台本があるよさだけでなく、「見て学ぶ」指導のよさについても子どもに分かっておいてほしい。

④ 資料提示までの流れについて

・教師から資料を提示するのではなく、話し合い中に子どもから「Hさんに聞いてみたい」「聞かないと分からない」と発言が出てから、資料を出すとよい。
・子どもが「Hさんに聞きたい」と思うには、どうすればいいか…。
子どもが考え尽くして、「Hさんに聞かないと分からない」という膠着状態になってもよい。

＜講師の先生より＞菊名小学校　野間　義晴　校長先生

①３５年という期間をどう捉えるのか。
子どもたちが実感を伴った理解にする必要がある。
② Hさんの思いや願いを見せるために、どうすればよいか。
口伝で変化していくよさと変化していかないよさを子どもが考えられるとよい。

1　提案内容　単元名

単元名「自然災害に備えるまちづくり
～予測不能な地震に備えて、自分たちにできること～」

2　提案者より

〇単元について

・都心南部直下地震と関東大震災の被害予想や被害状況から
身近な地域の取り組み⇒区や市の取り組み⇒県の取り組み　と広げていく。

・単元を見通す学習問題
「私たちのまちでは地しんに備えて、だれがどのように取り組んでいるのだろう。」
※「まち」は学校を中心としたまち。
※神奈川県の取り組みとして「ビッグレスキュー」に注目し、その規模や特徴から公助・共助について理解し、自助へつなげていきたい。

〇本時について

・公助から自助へ児童の目を向けさせていきたい。しかし、児童の視点を自助に向けさせる手立てに難しさを感じている。

〇本時の取り上げる材「ビッグレスキュー」について

・他の訓練と比べた際の規模の大きさが特徴。
・二年間コロナで実施していなかったが今年度は葉山町で開催。
・最先端技術の活用と消防の最新機器の活用が見られる。
・訓練を行うために半年間の準備期間を要する。

３　協議会

①「本気の学習問題について」

〇単元について

・児童が本気になるために、「瀬谷では、今まで地震が起こったらどうなったのか。」を押さえていくことで切実感をもたせたい。

・唐突に県の取り組みが出てくるため、瀬谷のまちの防災訓練と比較するとビッグレスキューの特徴も見えてくるのではないか。

・二ツ橋で地震が起こった際に誰が動くのか予想させてから資料を見せ、区・市と県のつながりが見え、関係機関のつながりが単元の中でぶつ切りにならないで進むのではないか。

〇「本気の学習問題」を生み出すために

・児童が防災についての知識・理解を深めて共通の土台を作っておく必要がある。

・過去の災害の事例からどれだけ児童を主体的にできるかが重要。

・地震が起きたら私たちのまちはどうなるのかを考えることでより本気になる。

・単元を見通す学習問題をふりかえる際に、「もうこれで安心かな。」と問いかけることで児童の「いや、もう少し何かしたほうが・・・」という考えを出し、そこへビッグレスキューの取り組みを見せることで焦点化していけるのではないか。

〇これからの取材について

・ビッグレスキューが実際に私たちのためになるのかという視点が必要。

・神奈川県民のために取り組みを行っているという言葉を聞き出したい。

・どんな人が参加するのか。人数はどうなのか。を聞くことで子どもは見ているだけでいいのかという自助の意識につながるのではないか。

・十年間続いているということで、その始まった経緯について触れたい。

⇒命を守るために連携を取らなければならないということが分かったり、市民が協力しなければならないということが分かったりしたら自助へつながる。

＜講師の先生より＞　洋光台第一小学校　中村　智　校長先生

より最近の東日本大震災を取り上げることで身近な問題となり、今日に生きる防災への取り組みにつながっていくのではないか。

４年生では自助・共助を中心に取り上げるため、単元の構想として、国⇒県⇒区・市⇒自分のまち　という流れが自助へ視点を向けていくうえで自然な流れになるかもしれない。

文責　　山口　暁風　（小田小学校　）